

令和7年産 コメ通信

第9号（令和7年8月22日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課

（電話：0186-62-1835）

登熟の進み早い！早めの刈取準備を！

1 気象経過と生育状況

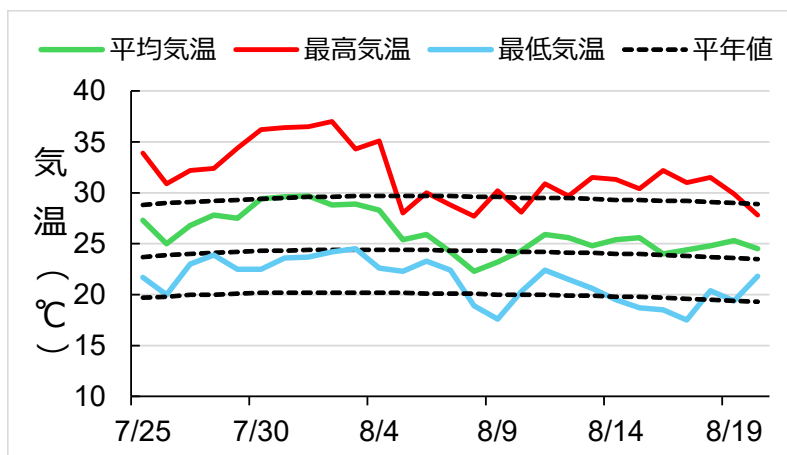
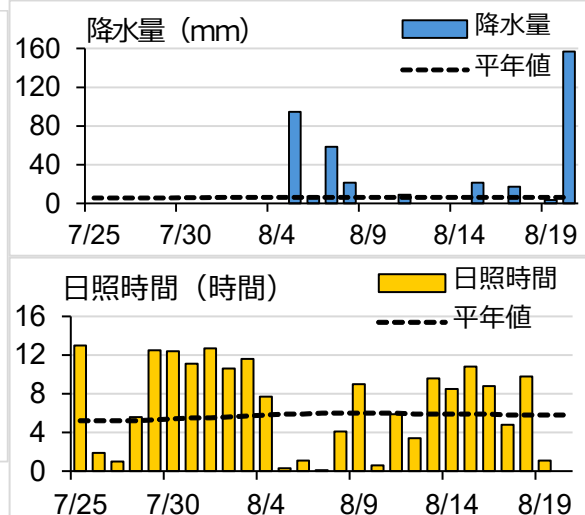


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）



【気象経過】

- 7月6半旬以降の気温は、平年よりもやや高く推移しました。8月5日～8日の大雨と8月20日の記録的な大雨により、降水量は平年よりもかなり多くなっています。日照時間は断続的な降雨や曇天により、平年並で推移しました。
- 仙台管区气象台発表の1か月予報（8月21日発表）によると、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されています。

【生育状況】

- 8月20日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、平年と比べ、穂数がやや少なくなりましたが、1穂あたりの着粒数が多くなったため、 m^2 あたりの着粒数はやや多い状況となっています（表1）。
- 定点調査ほの出穂期は7月27日（平年差－3日）、管内全体の出穂期は7月30日（同差－2日）となりました。
- 本年は草丈が長く、8月に入ってから大雨により、倒伏しているほが散見されます。
- 出穂が早かったほ場では、籾の黄化が進んでいます。出穂後の気温が高めに推移しているため、成熟期は早まると予想されます。刈り遅れによる品質低下を招かないよう、早期に収穫体制を整えましょう。

表1 定点調査結果（8月20日）

	穂数 (本/ m^2)	葉数 (葉)	着粒数		出穂期
			(粒/穂)	(粒/ m^2)	
本年	448	12.9	74.7	33,469	7/27
平年	463	12.9	71.1	32,787	7/30
前年	489	13.0	65.8	32,212	7/28
平年比	97%	+0.0	105%	102%	－3日
前年比	92%	－0.1	114%	104%	－1日

※平年は過去10か年の平均値を示す。

2 今後の水管理

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。
- 落水時期は、出穂30日後頃を目安とし、稲の登熟度やほ場の作業性等を考慮してください。玄米の充実を図るため、可能な限り落水時期を遅らせて、稲体活力の維持を図ってください。

<冠水・浸水にあったほ場における管理>

- 畦畔や用排水路等の点検・修繕を行い、適切な水管理に努めます。
- 冠水した稲は、体内水分を失いやすいので、ほ場の急激な乾燥に注意してください。
- 倒伏している場合は稲株を引き起こし、穂を地表面から離すことで登熟の低下を防ぎましょう。また、穂発芽の発生により品質低下が懸念されるため、被害程度と籾の状況を見極めつつ、適期収穫に努め、被害籾は仕分けして乾燥調製を行いましょう。
- ほ場内への漂着物は収穫時の事故に繋がるため、ほ場外へ除去してください。

3 主要病害虫の防除対策

【斑点米カメムシ類】

- 8月7日に病害虫防除所より「防除対策情報」が発表されています。出穂期24日後頃にキラップ剤(使用時期は収穫14日前まで)またはエクシード剤(同7日前まで)を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布します。
- 草刈りを行う場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。
- 飼料用米でも、2回目の防除を行ってください。

4 刈取適期の判定

- 刈取適期は品種や栽培方法によって異なります。本年は出穂期が早く、出穂後も気温が高めに推移しているため、成熟期が早まる見込みです。ほ場をよく観察し、判定基準から総合的に判断して、刈取適期を逃さないよう注意してください。

【成熟期の判定基準】

- ①籾の熟色(図2)
葉や穂首が緑色であっても、籾の黄化程度(黄色+黄白色)が90%の頃
- ②出穂後の日数
早生種(あきたこまち等): 出穂後45日頃
中晩生種(めんこいな等): 出穂後50日頃
- ③出穂後の積算気温(表2)
早生種: 950~1,050℃
中晩生種: 1,050~1,150℃

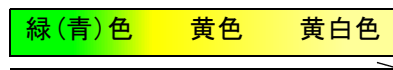


図2 熟色の進展

表2 積算気温到達日予想

出穂日	950℃(平成)	1050℃(平成)
7月25日	9月1日(9月4日)	9月6日(9月8日)
7月30日	9月8日(9月9日)	9月13日(9月14日)
8月5日	9月16日(9月17日)	9月22日(9月22日)
8月10日	9月23日(9月24日)	9月29日(9月30日)

※ 8月20日以降平年値で計算

※出穂期翌日から日平均気温を積算した値

5 お知らせ

カドミウム汚染米発生を防止しましょう!!

- 「あきたこまちR」以外の品種を作付しているほ場では、出穂前後3週間の湛水管理を**必ず実施**してください。
- J A・主食集荷商業協同組合加入業者**以外の**集荷業者や消費者へ直接販売する場合は、出荷前にロット調査によるカドミウム分析を各自で実施してください。



詳しくは↑

問い合わせはJ Aまたは農業振興普及課まで~次回発行は9月上旬頃~